ＩＣＴを活用した学びの推進について

Society 3.0 （工業社会）	Society 4.0 （情報社会）	Society 5.0 （超スマート社会）	○人工知能（AI）、ビックデータ、IoT（Internet of Things）等の技術の急速な進展 ○急激に変化し、将来の予測が難しい社会 ○社会生活の中で ICT（Information and Communication Technology　情報通信技術）を日常的に活用することが当たり前の世の中

Society 5.0 に向けた学校教育

【現状と課題】

○基盤的な学力を確実に定着させながら、他者と協働しつつ自ら考え抜く自立した学びが不十分である。

・文章や情報の意味を理解し思考する読解力に課題がある。

・全ての子どもたちに Society 5.0 時代に求められる基礎的な力を確実に習得させる必要がある。

・これまでの一斉一律授業のみならず、個人の進度や能力等に応じた学びの場の提供や、協働学習の拡充が必要である。

【Society 5.0 時代に求められる基礎的な力】

○情報活用能力（情報モラルを含む）

・情報を主体的に捉えながら、何が重要かを主体的に考え、見いだした情報を活用しながら他者と協働し、新たな価値の創造に挑んでいく。

・情報技術を手段として学習や日常生活に活用できるようにしていく。

（参考：文部科学省「学習指導要領解説　総則編」）

【今後の取組の方向性】

○教育の情報化（ICT の特長を生かして教育の質の向上を目指す。）

・情報教育

・教科指導における ICT 活用

・校務の情報化（きめ細やかな指導や校務の負担軽減等）

（参考：文部科学省「Society 5.0 に向けた人材育成～社会が変わる、学びが変わる～」）

Society 5.0 に向けた多摩市の学校教育

【第二次多摩市教育振興プラン　Ⅰ「確かな学力」を育む教育の推進　（５）情報教育】

「児童・生徒がパソコンやインターネットなどの機器やサービス、情報を適切に選択・活用し、情報社会での行動に責任をもつことができるよう、情報モラル教育を推進するともに、保護者・地域への理解・啓発を進めます。また、教科等横断的な学習により、学習の基盤となる情報活用能力の育成を図ります。」

教育の情報化と学びの在り方

【情報教育（プログラミング教育）】

○小学校（教科等）

・プログラミングを体験しながら、コンピュータに意図した処理を行わせるために必要な論理的思考力を身に付ける学習活動

○中学校（技術・家庭）

・計測・制御のプログラミング

・ネットワークを利用した双方向性のあるコンテンツのプログラミング

【教科指導における学習場面に応じた ICT 活用】

○一斉指導による学び（一斉学習）

・教師による教材の提示（画像や動画などを拡大して提示する等）

○子どもたち一人一人の能力や特性に応じた学び（個別学習）

・個に応じた学習　・調査活動　・思考を深める学習

・表現・制作　・家庭学習

○子どもたち同士が教え合い学び合う協働的な学び（協働学習）

・発表や話合い　・協働での意見整理　・協働制作

・学校の壁を越えた学習（他校の子どもたちとの意見交換等）

【校務の情報化】

○スタディ・ログ（学習履歴）の収集・分析

・個人の学習状況や学習成果（作文、作品、レポート、プレゼン等）を学びのポートフォリオとして電子化・蓄積し、一人一人の習熟の程度などに応じた「学習の個別最適化」を進める。

・子どもたちがポートフォリオを活用し自己評価や自分の学びを調整したりする。

（参考：文部科学省「教育の情報化に関する手引き」）